

熊本地学会誌

Journal of the Kumamoto Geoscience Association

No. 170



目 次

- 「解説」
熊本市東部の地下水の硝酸性窒素の現況について 1
田村 実 ・ 森下 吉郎
- 「短報」
球状集合を示す 2 種の沸石の内部構造 5
藤本 雅太郎
- 「行事報告」
平成 27 年度第 1 回巡検会「御船層群の層序と化石」報告 6
伊勢崎 文

熊本地学会
Kumamoto Geoscience Association
2016.2.29

表紙写真

御船町白岩から甲佐町白旗にかけて露出している御船層群上部層の大露頭。

熊本県上益城郡御船町と甲佐町の境にある白旗山（標高 137.9 m）には上部白亜系御船層群上部層が分布している。この写真は、1990 年代後半に撮影された白旗山南側の大露頭である。採石が停止している現在も地層の露出は保たれているが、最近では、手前の空き地に建てられた工場や植生によって露頭へのアクセスが難しくなっている。しかし、今でも接近して観察できる場所も残されており、毎年多くの児童・生徒がこの場所を訪れ地層の学習を行っている。

ここに露出している地層は、河道充填砂岩層、氾濫原堆積物である赤色～灰緑色泥岩層、酸性凝灰岩層等であり、上部層の典型的な堆積相からなる。全体的に河川堆積物と解釈され、氾濫原堆積物中には古土壌の発達が見られる。火山豆石を含んでいる凝灰岩層もあり、その形成過程の考察を通して、当時の火山活動の様相をうかがい知ることができる。化石は多くないが、これまでに植物化石や恐竜（獣脚類）の歯の化石等が見つかっており、今後も新たな化石の発見が期待できる。

（写真・解説：池上直樹）